

競技運営に関する注意事項

大会は、本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則・取り決め事項を適用して行います。

- 1 代表者会議で説明、または、決められた事項は、必ずチーム全員に徹底させてください。
- 2 S級及びB級の選手登録は、各大会の代表者会議（キャプテン会議）にそれぞれ行うこととします。A級の選手登録は年度当初に行うことを基本とし、詳細は別に定める確認事項によるものとします。その他、一度登録した選手の変更・追加・背番号の変更は認めません。
なお、登録名簿は監督（30番）、主将（10番）、若い番号の順で記入してください。
- 3 ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とします。
- 4 シートノックは、基本的に行いません。
- 5 メンバー交換後、先発のバッテリーに限りブルペンでの投球を認めます。その際は、バッテリーともにユニフォームを着用し、捕手は全て指定された用具を身に付けてください。
- 6 同一チームの各プレイヤーは同色・同型・同意匠のユニフォーム、アンダーシャツ、ストッキング、帽子を着用してください。なお、スパイクは同色・同型でなくても構いません。
また、ユニフォームの左袖に日本字又はローマ字で都道府県名を付けることが望ましいです。
- 7 その日の第一試合に出場するチームは、外野に限り練習での使用を認めます。その際は、アップ用の服装（同一が望ましい）でも良いが、オーダー表の提出時には全員ユニフォームに着替えてください。
第二試合以降のチームは、外野でのトスバッティング及びフェールグラウンドでのノックのみ認めます。
- 8 ベンチ内に入る選手以外の関係者はチーム同様の帽子を着用し、靴は運動のできる仕様とします。
また、メガホンは、ベンチ内に一個に限り使用を認めます。
- 9 オーダー表の提出は、その日の第一試合は開始予定時刻の30分前に、第二試合以降は、4回終了時に提出してください。なお、時間制限を設けている大会においては、前の試合の開始から1時間経過した時点で提出してください。その目安は、試合開始予定時刻の30分前としますが、当日の天候等によっては、提出時間を変更する場合がありますので、当日の本部の指示を最優先とします。
オーダー表提出後は、登録選手名簿と照合した後、攻守を決定します。オーダー表は、指定した用紙を使用（5枚複写）してください。
- 10 選手のオーダー表への記入は、当該大会の登録者全員を記入してください。ただし、シーズン途中に脱退した選手は記入の必要はありません。
- 11 第二試合以降は、試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分で次の試合を開始します。
- 12 組み合わせ表にある試合開始時刻は、あくまで予定であり、第二試合以降のチームは予定時

刻の1時間前までに集合してください。

13 試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権とみなします。

14 雨天の場合

(1) 雨天の場合でも、日程の都合上、球場が使用可能な場合は試合を行います。

(2) 当日試合を行わない場合又は時間を遅らせ行う場合があるので、チームから積極的に大会実行委員に問い合わせてください。なお、決定時刻は、原則午前7時とします。

15 ベンチに入れる人数は、登録されユニフォームを着用した監督を含む25人以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）各1人とします。

16 チーム全員は、必ずスポーツ傷害保険に加入するとともに、必要に応じ賠償責任保険等にも加入してください。大会主催者は、一切の責任を負いませんので、参加するチームは、このことを了承しているチームと見なします。

競技上の注意事項・大会特別規則

大会は、本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則・取り決め事項を適用して行います。

1 試合

(1) ゲームは、1回戦及びB級大会においては7回90分、また、B級大会以外の準決勝戦・決勝戦・3位決定戦においては9回110分を超えて、新しいイニングには入らないものとします。ただし、3位決定戦においては、当日の状況に応じて変更する場合があります。

(2) 得点差によるコールドゲームは、7回戦では5回7点差、9回戦では5回以降10点差、7回以降7点差とします。

2 暗黒時等

青木町公園総合運動場野球場には照明施設がありますが、試合の途中で暗黒、日没などとなった場合は、本部の判断の下、参加チームに了承を得て、コールドゲームを採用します。イニング等の判断は、その日の天候、その後の日程等を考慮し、その都度行います。

3 延長戦

原則、時間制限内であれば、延長戦を行います。（日本スポーツマスターズ大会予選については、延長戦は行わず直ちに特別延長戦を行います。）制限時間を過ぎた場合は、特別延長戦を行います。なお、天候等、特別の事情がある場合は、抽選を行う場合もあります。

4 特別延長戦

タイゲームのときは、特別延長戦を行います。方法は、継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁走者は、その前の打者とします。すなわち、0アウト一塁・二塁の状態にして、勝敗が決するまで続行します。

5 抗議権を有する者

監督または主将、その他当該プレイヤーとします。

6 守備側のタイム回数の制限

監督またはコーチ等が、また捕手及び内野手が、一試合に投手のところに行ける回数は3回以内とします。なお、延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、1イニングに1回行くことができます（7イニング・9イニングの試合ともに）。

監督またはコーチ等がプレイヤーとして出場している場合は、投手のところに行けば野手としての1回と数えますが、協議があまり長引けば監督またはコーチ等が投手のところに行けたこととして通告します。

野手（捕手を含む）がタイムを要求し投手のところへ行ったら場合、そこに監督またはコーチ等が行けば、双方1回として数え、逆の場合も同様とします。

投手交代の場合は、上記の回数には含みません。

7 攻撃側のタイムの回数制限

攻撃側のタイムは、一試合に3回以内とします（代打・代走のタイムは含みません）。

なお、延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、1イニングに1回とします。

8 試合に出場する捕手は安全のためプロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、マスク、ファールカップの装具の着用を義務とします。

また、打者、次打者及び走者並びにコーチは必ず公認のヘルメットを着用してください。

9 試合中、攻守交代時に限り控え選手の外野方向へのランニングを認めます。

10 指名打者の取り扱いについて

すべての大会において指名打者ルールを使用することができることとします。

11 試合時間の管理

(1) 試合時間は大会本部が管理し、試合時間を通告します。

(2) 制限時間に達した時は、審判員はそのことを両チームに通告します。

【ケース1】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9		計
A	0	0	0	0	2	0	0	1			3
B	1	0	0	1	0	0	0				2

〔9回戦においてAがリードの8回表に110分が経過した場合〕

※8回裏の攻撃まで行います。

【ケース2】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9		計
A	0	0	0	0	2	0	0	0			2
B	1	0	0	2	0	0	0				3

〔9回戦においてBがリードの8回裏に110分が経過した場合〕

※110分が経過した時点で試合終了としますが、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、その打者が打撃を完了して試合終了とします。

なお、両ケースともに7回戦においては試合時間を「90分が経過した場合」に置き換えます。

試合中の禁止事項

- 1 マスコットバットを次打者席に持ち込むことは差し支えないが、プレイの状況に注意し適切な処置をしてください。また、競技場内に素振り用鉄パイプ及びリングの持ち込みを禁止します。
- 2 投手が手首にリストバンド、サポーターなどを使用することを禁止します。ただし、アームスリーブについてはアンダーシャツと同色で両袖着用であれば認めます。なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要がある場合は、本部等の承認が必要となります。
- 3 危険防止のため、足を高く上げてのスライディングは厳禁とします。現実はこの行為が妨害となったと審判員が認めたときは、守備妨害とし走者をアウトとします。
- 4 作為的な空タッチは禁止とします。現実には妨害（よろめいたり、著しく速度が鈍った場合）になったと審判員が認めたときは、オブストラクションを適用します。
- 5 プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁止します。
- 6 守備側からのタイムで試合が停止されたとき、その間投手は捕手を相手に投球練習することを禁止します。
- 7 捕手用ヘルメットとマスクの一体製品の使用は禁止します。
- 8 試合が開始されたら、控えの選手で試合に出場する準備（交代選手のキャッチボール）をしている者の他は、特別な場合を除きベンチ内から出ることを禁止します。
- 9 登録していない者、子供がベンチ内に入ることは固く禁止します。
- 10 次打者の素振りは、投手が投球姿勢に入ったときは禁止します。
- 11 塁上の走者及びベースコーチが守備側（捕手）のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止します。
- 12 試合中の喫煙及びガム等は禁止します。
- 13 チャンスや得点時の際、みだりにベンチ内のリーダーが音頭を取って、声を揃えて歓声をあげ拍手をすることを禁止します。
- 14 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁とします。また、スタンドでの自チーム側からの野次もチームの責任とします。
- 15 もめ事するとき、審判員や相手側のプレイヤーに手を掛けることを厳禁とします。
- 16 ネックレスを着用する場合は、アンダーシャツ内に装着してプレイをしてください。
- 17 球場内（試合前含む）でのフリーバッティング及び特殊なボールを使用したフルスイング等の行為も危険行為とみなし禁止します。また、ラバーフェンスにボールを投げ当てる行為も禁止します。

試合のスピードに関する事項

- 1 攻守交代は、駆け足で行ってください。監督またはコーチのマウンドへの往復は、小走りでスピーディーに行ってください。
- 2 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球してください。また、捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んでサインを確認の上、投球姿勢に入ってください。
- 3 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球してください。違反した場合、走者がいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告します。
- 4 攻守交代時に正捕手が安全具を装着準備中に投球練習を受ける選手は、プロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、マスク、フェールカップの装具の着用を義務とします。（令和5年3月規則改正予定）
- 5 打者は、速やかに打席に入り、バッターボックス内でベンチからのサインを見てください。
- 6 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めません。
- 7 内野手の転送球については、試合中の「ボール回し」のみ認めます（1回のみ）。なお、天候状態、試合の進行状況によっては、審判員の判断で途中から全面的に禁止する場合があります。
- 8 イニング終了で攻守交代の際、最後のボール保持者は、ボールを転ばさないできちんとマウンドに置いてください。
- 9 代打者または代走者の通告は、氏名とともに「代打者」または「代走者」の背番号を見せてその旨を告げることとし、球審も放送席に向かって選手の背番号を見せて、「代打」または「代走」と告げてください。
- 10 次打者は速やかにネクストサークルに入り待機してください。
- 11 打者が二塁打を打ち、打者用手袋から走塁用手袋に変える為にタイムをかける行為を禁止します。ただし、レグガードとエルボーガードを外す時のタイムは認めますが速やかに行ってください。